漢代に於ける老子年代觀

高橋俊英

（要　項）

一、前漢春秋說
二、前漢戰國說
三、總括
四、後漢

一

漢代に於て老子の年代は如何に考へられてゐたであらうか、今これについて一考してみたい。

先づ前漢に於て、孔子が老子に禮を問うたといふ孔子問禮の說話が存在したことは事實である。孔子問禮のことは史記の老子韓非列傳〔註一〕、孔子世家〔註二〕、仲尼弟子列傳〔註三〕に見え、この三つの記事の間には大體に於て矛盾は無いやうである。たゞ老子が孔

子に向つて言つた言葉が老子韓非列傳と孔子世家とその文に相異があるけれども、孔子世家にあるものは孔子辭去の時の言葉となつてゐるから、列傳に見えるものは初見の時の言葉と思へば差支へない。

又、孔子世家〔註二〕に孔子十七歳の時魯太夫孟釐子が沒したといふ事が載つてゐるが、これは崔述が指摘してゐる〔註四〕如く孟釐子の死は實は昭公二十四年である。孟懿子と南宮敬叔の生れたのは昭公十二年であるから、七年に父釐子の遺言を受けて禮を孔子に學ぶといふ筈がないのである。故に孔子年十七、懿子、敬叔學禮の事は世家が左傳を見違へた結果の誤であるが、左傳に由れば正しくは昭公二十四年或はそれ以後に於て懿子、敬叔が孔子に禮を學んだといふ事のあつたのは事實である。然しながら世家に言ふ所の、敬叔が魯君に孔子と共に周にゆかん事を請ひ、車や馬を戴いて共に老子に禮を問うたといふ事柄は左傳にも見えない所であつて、世家は何に本づいたものであるか判明しない。斯くの如く孔子世家に於ては孔子は南宮敬叔と共に老子に禮を問うたと記されてゐるが、老子韓非列傳には孔子單獨で周に赴いた樣に記されてゐて記事が一致してゐない。然し何づれにせよこの孔子問禮の說話は孔老時代を同じくする事を示してゐる。

莊子の德充符にも孔老時代を同じくすることを示す話が載つてゐる。〔註五〕

更に孔老時代を同じくする事を積極的に示すものは禮記の曾子問の記事である。〔註六、註七、註八、註九〕曾子問によれば孔子が「吾聞諸老聃。」と言ふ事四度、殊に孔子が「昔者吾從老聃助葬於巷黨。云々。」と言ひ、日蝕に際して老聃が「丘。止柩就道右、止哭以聽變。」と言つてゐる言葉から察すれば、老子は孔子より餘程年長であつたことが考へられる。

閻若璩がこの曾子問の日蝕は昭公二十四年の日蝕であると推算して、從つて孔子問禮は昭公二十四年であると論じてゐる〔註十〕のは甚だ傾聽に値する。而してこの昭公二十四年には孟釐子が歿し、その遺言によつて懿子と敬叔が孔子に師事して禮を學

んでゐる。前掲の如く史記の孔子世家に敬叔が孔子と共に周に赴いて老子に禮を問うたといふ話が載せられてゐて、この話は何に本づくものであるか判明しないのである。然るに閻若璩の如く孔子問禮を昭公二十四年とすれば、その事實と、同じく廿四年に敬叔が孔子に從つて禮を學んだといふこの二つの事實は、世家に言ふ所の敬叔が孔子と共に周に赴いて老子に禮を問うたといふ説話を導き出し易い條件になる。然りとすれば漢代に於て昭公二十四年に敬叔が孔子に禮を學び、同年に又孔子が老子に禮を問うたといふ二つの事實が信ぜられてゐて、次第に老子が傳説化されるに從つてかゝる事實から世家所載の如き説話を生じ、史記成立の頃には一般に老子説話として成立してゐたものであるかも知れない。

とにかく、前漢に於て信ぜられてゐた孔子問禮の事實及びその事實が昭公二十四年前後であるとされてゐた事から推定すれば、前漢に於て老子の年代は周の簡王より敬王までの間となされてゐたものと考へられる。

二

然るに前漢の老子年代觀は決して統一されてゐない。即ち、同じく史記の老子韓非列傳に老子の世系が述べられてゐて、〔註十一〕これによると老子の世系は次の如くである。

老子—宗—注—宮—〇—〇—〇—假—解

汪中は世系の老子を以て周太史儋なりとし、宗を儋の子と考へその宗は段干子であるとなしてゐる。〔註十二〕その割註によれば宗を魏世家の段干子、國策の段干崇となしてゐるのである。〔註十二〕齋藤拙堂も亦世系の宗を以て段干崇なりとして老子の年代を推定してゐる。〔註十三〕

然し此の世系の宗を段干崇となすのが正當であるか否かについては次の如き疑問がある。

（一）汪中は世系の老子を以て周太史儋となし、宗卽ち段干崇を儋の子となしてゐるが、秦本紀によれば太史儋が獻公に見えたのは獻公十一年であり、段干崇が秦と和せん事を請うたのは秦の昭王三十四年であつて此間實に百一年である。之は父子の年數として隔り過ぎてゐる。從つて、世系の老子を周太史儋となし、宗を段干崇と見るのは恐らく誤であらうと思はれる。

（二）列傳の世系によれば、宮玄孫假、假仕於漢孝文帝。」とあるが、宗を段干崇なりとして崇が秦と和せんことを請うたは安釐王四年から孝文帝の末年までその間百十六年であつて、世系を數ふるに七代を經過してゐる。一世三十年として七代で百十六年は餘りに短きに過ぎると言はなければならない。假が漢の孝文帝に仕へたことは世系に明記する所であるが、宗が段干まであるか否かは憶測に過ぎないのであるから、斯の如く世代と年數の不相應を生ずるのは恐らく宗を段干崇と見做すことが誤であるのであらう。

以上の如く考へれば、宗を段干崇と見做すのは妥當でなく、從つて宗卽段干崇として老子の年代を推算することは當を得ないであらう。

今直ちに世系に據つて、假の年代を孝文帝の末年とし、一世三十年として七代二百十年を遡ると世系の老子の年代は周の顯王四年となるのである。列傳に見える老子の事蹟と太史儋の事蹟とは著しく相類して居り、且、列傳によれば、漢代、老子卽周太史儋となす說が存したのであつて、然も儋が獻公に見えた周の烈王二年は顯王四年と相去ること僅か九年である。〔註十四〕卽ち、この世系に示された老子の年代は周太史儋の年代と全く符合するのであつて、この世系中の老子は正に漢代太史儋に

混同せられた老子であるに相違ない。而してこの世系は周太史儋と老子とを混同した漢代老子説の一であらう。斯くの如く考へて始めて汪中の説が生きてくるものと思ふ。

斯くしてこの列傳の世系及び老子卽太史儋の説によれば、前漢に於て老子の年代は孔子の歿後約百年、周の烈王頃となされてゐたものと考へられる。

三

要するに前漢に於ては、老子の年代を周の簡王より敬王までの間となす春秋説と、烈王頃となす戰國説とが存するのである。史記はこの二説と併せ載せてゐるけれども何づれが是なりとの解決も與へてゐない許りでなく、同じ列傳に「蓋老子百有六十餘歲。或言二百餘歲。」又「莫知其所終。」とその年代が不明瞭であることを表し更に「或曰、儋卽老子。或曰、非也。世莫知其然否。」と老子が果して何人であるのかさへも明確でないことを表してゐる。之によつて見れば、前漢、老子の年代は既に不明に屬し、老子は傳説的人物となつてゐた事が察せられるのである。

四

後漢の邊韶の老子銘〔註十四〕に據れば、老子は周の幽王の世に在つて三川が震ふに及び、時王を鑒喩したといふのであるが、この三川震動のことは國語に幽王二年西周の三川が震ふた時、伯陽父が夏殷の故事を引いて周の將に亡びんとするのを豫言したといふ話が出てゐる。邊韶がこの伯陽父の傳説を老子に結びつけ、且伯陽を老子の字としてゐること等を察すると後漢に於

てはこの伯陽父が老子に混同されてゐるのである。從つて後漢に於ては、老子の年代を周の幽王の時代となしてゐるのである。然し同時に孔子問禮の說話をも認めてゐるので、〔註十四〕老子は周の幽王の時から孔子が禮を問ふた景王十年まで約二百四十年も生き長らへてゐなければ具合が惡いことになるので、〔註十四〕老子銘にはその年壽を二百餘歲となしてゐる。而して老子銘が孔子問禮を景王十年孔子十七歲の時となしてゐるのは恐らく史記の孔子世家が懿子、敬叔の孔子に禮を學んだ年代を誤つて孔子年十七歲となし、孔子問禮と三十歲より稍年少の時となしてゐるのを更に誤つて、孔子問禮を孔子十七歲と時となしてゐるのであらう。

之を要するに、後漢に於ける老子の年代觀は、前漢のそれを引き繼いで、孔子問禮說話を認めて老子を春秋に置き、一方前漢に於けると同樣に老子を周の太史儋に〔註十四〕混同して戰國に引下げてゐる。而して更に、周の幽王時代の伯陽父を老子に混同し老子の年代を幽王時代に置いてゐる。これは後漢に於て新たに敷衍された老子說である。後漢に於てはこの異つた三說が同時に採られてゐたのであつて、老子が全く傳說化された事實を見るのである。老子銘から察すると、後漢に於ては、老子は既に說話化から更に進んで神祕化宗敎化されて行つた樣である。〔註十五〕

註一、孔子適周、將問禮於老子。老子曰。子所言者、其人與骨皆已朽矣。獨其言在耳。且君子得其時則駕、不得其時則蓬累而行。吾聞之、良賈深藏若虛。君子盛德容貌若愚。去子之驕氣與多欲、態色與淫志。是皆無益於子之身。吾所以告子、若是而已。孔子去謂弟子曰。鳥吾知其能飛。魚吾知其能游。獸吾知其能走。走者可以爲罔。游者可以爲綸。飛者可以爲矰。至於龍吾不能知。其乘風雲而上天。吾今日見老子、其猶龍邪。（史記老子韓非列傳、集解本、索隱本、王震澤本同）

註二、孔子年十七、魯大夫孟釐子病且死。誡其嗣懿子曰、孔丘、聖人之後、其祖弗父何始有宋而嗣、讓厲公。……吾聞聖人之後、雖不當

世、必有達者。今孔丘年少好禮其達者歟。吾卽沒、若必師之。及懿子卒、懿子與魯人南宮敬叔往學禮焉。是歲季武子卒。平子代立。孔子貧且賤。及長嘗爲季氏吏。料量平。嘗爲司職吏。而畜蕃息、由是爲司空。已而去魯。斥於齊。逐於宋衛。困於陳蔡之間。於是反魯。孔子長九尺有六寸、人皆謂之長人而異之。魯復善待。由是反魯。魯南宮敬叔言魯君曰、請與孔子適周。魯君與之一乘車、兩馬、一豎子。俱適周問禮。蓋見老子云。辭去。而老子送之曰、吾聞、富貴者送人以財、仁人者送人以言。吾不能富貴、竊仁人之號。送子以言。曰、聰明深察而近於死者、好議人者也。博辯廣大、危其身者、發人之惡者也。爲人子者毋以有己。爲人臣者毋以有己。孔子自周反于魯、弟子稍益進焉。是時也、晉平公淫、六卿擅權、東伐諸侯。楚靈王兵彊。陵轢中國。齊大而近於魯。魯小弱。附於楚則晉怒。附於晉則楚來伐。不佛於齊、齊師侵魯。魯昭公之二十年而孔子蓋年三十矣。（史記孔子世家）

註三、孔子之所嚴事。於周則老子。於衛、蘧伯玉。於齊、晏平仲。於楚、老萊子。於鄭、子產。於魯、孟公綽。（仲尼弟子列傳）

註四、孔子世家云、孔子年十七孟釐子卒。懿子及南宮敬叔往學禮焉。余按春秋傳、此文在昭公七年。由襄公二十二年遡推之。則孔子至是當年十七。是以史記云然。然孟僖子之卒、實在昭公二十四年。傳但因七年孟僖子至自楚、病不能相禮、而終言其事耳。世家不察、以爲本年之事。誤矣。（崔述・洙泗考信錄）

註五、魯有兀者叔山無趾。踵見仲尼。仲尼曰。子不謹前。既犯患若是矣。雖今來何及矣。無趾曰。吾唯不知務。而輕用吾身。吾是以亡足。今吾來也、猶有尊足者存。吾是以務全之也。……無趾語老聃曰。孔丘之於至人、其未邪。彼何賓賓以學子爲。彼且蘄以諔詭幻怪之名聞。不知至人之以是爲己桎梏邪。老聃曰。胡不直使彼以死生爲一條。以可不可爲一貫者。解其桎梏。其可乎。無趾曰。天刑之。安可解。（莊子內篇德充符）

註六、曾子問曰。葬引至于堩。日有食之、則有變乎、且不乎。孔子曰、昔者吾從老聃、助葬於巷黨。及堩日有食之。老聃曰、丘、止柩就道有、止哭以聽變。既明反。而后行。曰、禮也。反葬而丘問之曰、夫柩不可以反者也。日有食之。不知其已之遲數、則豈如行哉。老

聘。諸侯朝天子、見日而行、逮日而舍。大夫使、見日而行、逮日而舍。夫柩不蚤出。不莫宿。見星而行者、唯罪人與奔父母之喪者乎。日有食之、安知其不見星也。且君子行禮、不以人之親店患。吾聞諸老聃云。（禮記曾子問）

註七、曾子問曰、古者師行、必以遷廟主行乎。孔子曰、天子巡守、以遷廟主行、載于齊車。言必有尊也。今也取七廟之主以行、則失之矣。當七廟五廟無虛主。虛主者、唯天子崩、諸侯薨、與去其國、與祫祭於祖、爲無主耳。吾聞諸老聃。曰、天子崩、國君薨、則祝取羣廟之主、而藏諸祖廟。禮也。卒哭成事、而后主各反其廟。君去其國、大宰取羣廟之主以從。禮也。祫祭於祖則祝迎四廟之主。主出廟入廟。必蹕。老聃云。（禮記曾子問）

註八、曾子問曰、下殤土周葬于園。遂興機而往。塗邇故也。今墓遠、則其葬也如之何。孔子曰、吾聞諸老聃。曰、昔者史佚有子而死。下殤也。墓遠。召公謂之曰、何以不棺斂於宮中。史佚曰、吾敢平哉。召公言於周公。周公曰、豈、不可。史佚行之。下殤用棺衣棺、自史佚始也。（禮記曾子問）

註九、子夏問曰、三年之喪、卒哭金革之事無辟也者、禮與。初有司與。孔子曰、夏后氏、三年之喪、既殯而致事。周人卒哭而致事。記曰、君子不奪人之親。亦不可奪親也。此之謂乎。子夏曰、金革之事無辟也者、非與。孔子曰、吾聞諸老聃。曰、昔者魯公伯禽、有爲爲之也。今以三年之喪、從其利者、吾弗知也。（禮記曾子問）

註十、蓋曾子問、孔子曰、昔者吾從老聃。助葬於巷黨、及坰日有食之。惟昭公二十有四年、夏五月、乙未朔、日有食之。見春秋。此卽孔子從老聃問禮時也。（閻若璩。四書釋地續）

註十一、老子之子、名宗。宗爲魏將、封於段干。宗子注。注子宮。宮玄孫假。假仕於漢孝文帝。而假之子解爲膠西王卬太傅。因家於齊焉。（史記老子韓非列傳集解本索隱本・王震澤本同）

註十二、周太史儋見秦獻公。本紀在獻公十一年。去魏文侯之歿十三年、而老子之子宗、爲魏將、封于段干、則爲儋之子、無疑、言言道德

之意五千餘言者儋也。其入秦見獻公、即去周至關之事、本傳云、或曰、儋即老子。其言蹠矣。

〔右、封于段干ノ下割註〕魏世家、安釐王四年、魏將段干子、請予秦南陽以和。國策、華軍之戰、魏不勝秦、明年將使段干崇割地而講。（汪中・述學老子攷異）

註十三、今按魏世家、安釐王三年、有段干子者。閱戰國策、乃知其名崇。……是必老子之子。宗崇古相通。其不稱李而稱段干者、猶柳下惠東里子產之類。段干崇之爲李宗必矣。（齊藤拙堂・老子辨）

註十四、老子姓李、字伯陽、楚相縣人也。……老子爲周守藏室吏、當幽王時、三川實震、以夏殷之季、陰陽之事、譬喻時王。孔子以周靈王廿年生、到景王十年、年十有七、學禮於老聃、計其年紀、聃時以二百餘歲、聃然老旄之貌也。孔子卒後、百廿九年、或謂周太史儋、爲老子、莫知其所終。……（隸釋所載・邊韶老子銘）

註十五、或有浴神不死、是謂玄牝之言、由是世之好道者、觸類而長之、以老子離合於混沌之氣、與三光爲終始、觀天作讖闕降升斗星隨日九變、與時消息、規矩三光、四靈在旁、存想丹田、大一紫房、道成身化、蟬脫渡世、自羲農以來、闕爲聖者爲師。（老子銘）